

木積の石塔

匠 瑗 探 訪

153

塔には「村中善男女等」と刻まれ村をあげてまつりました。

県道106号八日市場佐倉線沿いのバス停から木積区(豊栄地区)集落

に入り、少し進むと二股に分かれる場所があり、そこに1基の石塔があります。

倒れかかっていたものを整えた、との知らせがあったので見に行きました。

木積の集落は、1300年代中ごろにまつられたと伝わる白山神社と龍頭寺を中心に成立したとされています。そこに江

戸時代、日顛にちぎぎという日蓮宗の高僧が出て、圓實寺も建てられました。

村内に真言宗と日蓮宗の二つの宗派が存在することから、信仰活動を伝える石塔も混在しています。

年代を追って地区内にある石塔を見ると、1690(元禄3)年の題目塔(日蓮宗)は「木積村真信一同」「真信」は信者の意味)が立て、1716(享保元)年の十五夜

今回土台が整えられ

た石塔は、1788(天明8)年の庚申塔で「木積村講中」とあり、庚申信仰の仲間が村の入り口に守り神の願いも込めて立てたのでしよう。

集落内にはこの他に、子安宮、浅間宮、天満宮など多くの石塔や石祠いしだいら(石の宮)が見られます。

1843(天保14)年ごろの木積村家数は61軒で、本郷と青葉谷あはぎやの2集落からなり、両集落を表す「両作りょうさく(両谷)」



木積の庚申塔

や「青葉谷」などと刻まれた石塔が見られ、それらに願いを掛けた人たちの歴史を今に伝えていきます。
(市文化財審議会委員・依知川雅一)

問 秘書課広報広聴班 ☎73・00

80